

8月28日

命の大切さを学ぶ 乳児ふれあい体験学習

命の大切さを考える「乳児ふれあい体験学習」が白糠高校で開かれました。

同学習では、1・2年生を対象に、町の助産師による性教育講話と人形を使った沐浴体験が行われました。沐浴をした生徒たちは「片手で赤ちゃんを支えながら、体を洗うのが大変でした」「抱っこしてみると結構重くて驚きました」などと話していました。



町の保健師に教えてもらいながら沐浴をする生徒



演奏も交えながら有名作曲家について説明する笠原さん

8月27日

作曲家の知られざる秘密 大作曲家の家計簿

町教委主催の公民館講座が同館で開かれ、町民8人が参加しました。今回は「大作曲家の家計簿」と題して元音楽教諭の笠原邦夫さんが講師を務めました。

笠原さんは、バッハやモーツァルトなどが音楽だけで生計を立てられたのかを解説。「モーツァルトは宮廷に務めていたので収入は安定していたが、召使いと同様の待遇をされ独立した」などと話していました。



左から廣澤局長、松島局長、藏本局長、棚野町長

8月19日

自然を守るために 自然の番人宣言賛同企業宣言式

新たに「自然の番人宣言」運動の趣旨に賛同した、町内郵便局の宣言式が役場で行われました。

この日は、白糠郵便局の藏本博幸局長、庶路郵便局の松島健二局長、西庶路郵便局の廣澤和幸局長が役場を訪れ、それぞれが「家族ともども自然の番人となり、積極的に本運動に参画する」と宣言文を読み上げ、棚野孝夫町長より認定証の交付を受けました。

8月18日

一人親家庭に届ける温かい支援 弁当の無料配布事業

子ども食堂などを運営しているNPO法人陽向ぼっこ（儀同一義代表）が、町内の一人親家庭を対象に弁当の無料配布事業を開始しました。

同事業は子ども家庭庁から、むすびえ・こども食堂基金として300万円の助成を受け実施され、日替わりメニューの弁当は、来年1月まで毎週日曜日に配布されます。この日は、48世帯に135食を届けました。



初回は稲荷ずしと巻きずしの弁当が配られました

8月30日

白糠町の魅力をPR ザ・ロイヤルエクスプレス歓迎

東急とJR北海道が運行する豪華観光列車「ザ・ロイヤルエクスプレス」を歓迎するイベントが、JR白糠駅で行われました。この日は、町のゆるキャラ「コイタ君とメイカちゃん」のほか、女性連絡協議会の会員や町民が旗を振るなどして乗客を出迎えました。

運行開始から5周年を記念した4泊5日の特別プランが生まれ、同列車は2日目に白糠町を訪れました。



JR白糠駅で乗客を歓迎



パークゴルフを楽しむ参加者

8月30日

交通安全への意識を共有 交通安全パークゴルフ大会

パークゴルフを通じて参加者同士が交通安全への意識を共有する「交通安全パークゴルフ大会」が道通公園で開かれ、参加した59人が楽しく交流を深めました。

大会結果は、男性の60歳以上74歳以下の部で谷中順一さん、75歳以上の部では佐藤正己さんが優勝。女性は60歳以上74歳以下の部で山本浪子さん、75歳以上の部では古野善子さんが優勝を飾りました。



写真上・下/慰霊祭の前に8月2日、白糠ロータリークラブ（森武人会長）の会員5人が、供養之塔周辺の草刈作業を行いました。森会長は「交通安全の願いを込めて毎年草刈りをしています。今後も継続したい」と話していました。



焼香を行い故人に冥福を祈る小松会長

8月19日

交通事故で失われた命に捧げる 交通事故死者慰霊祭

交通安全協会（小松嗣明会長）主催の交通事故死者慰霊祭が、和天別の交通事故死者供養之塔前で行われ、参列した関係者16人が事故で亡くなった方に深い哀悼の意を表しました。

式では、故人へ黙とうが捧げられ、その後一人一人が供養之塔前で焼香しました。小松会長は「事故による犠牲者がなくなるよう、関係団体とともに交通安全運動を推し進め、事故の根絶に向け一層の力を尽くします」と追悼の言葉を述べました。